

東京芸術祭ファーム
Farm-Lab Exhibition 演出助手 募集
[応募締切 2021年6月20日(日)23:59 JST]

▶ネス・ロケと敷地理が共同演出を行う舞台芸術作品（創作トライアル）の演出助手を募集します。

一人ではたどり着けない場所へ

東京芸術祭ファームのプログラムのひとつ「Farm-Lab Exhibition」*は、トランスカルチャーを背景に国際コラボレーション作品の可能性を拓き、今後、東京芸術祭や国際的なステージでの上演を目指し、創作トライアルを行う人材育成プログラムです。様々なバックグラウンドを持つメンバーが相互に刺激し合い、これまでの経験とは違った創作方法やコミュニケーションへのトライ、また観客からのフィードバックを通じて、作品やアーティスト自身のステップアップを目指します。

ネス・ロケと敷地理が共同演出を務め、公募でアジアから集まった出演者たちとの創作トライアルの演出助手を公募いたします。

*「東京芸術祭 APAF Exhibition」は2021年度より「東京芸術祭ファーム Farm-Lab Exhibition」に名称を変更しました。

(実施概要、募集概要は次ページより)

| 東京芸術祭 Web サイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、
公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）〕

助成：令和3年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業



Farm-Lab Exhibition 実施概要

アジアを拠点に活動する若手アーティストが集い、舞台芸術作品の創作トライアルを行います。ネス・ロケ（APAF2020 Lab 参加者）と敷地理（APAF2018アートキャンプ参加者、APAF2019 Exhibition 美術）がディレクションチームとして共同で演出を担当、出演者は公募により決定し、参加者全員で協働しながらクリエーションを進めていきます。また、アドバイザーとして劇作家・演出家の松田正隆がディレクションチームの創作をサポートします。

7月下旬よりオンラインにてクリエーションを開始、10月からは東京に集まり1ヶ月間の滞在制作を行います。10月最終週には成果発表として、東京芸術劇場アトリエイースト、アトリエウエストにて、ワークインプログレスを一般公開し、観客からフィードバックを受けながら作品をブラッシュアップしていきます。

■ 実施日程

期間：2021年7月下旬～10月31日(日)

	場所	日程
顔合わせ	オンライン (使用ツール：Zoom)	7月下旬 ※日程は採用者と調整の上、決定
オンライン稽古		9月中旬～：週1～2回、各回2時間程度 ※日程は採用者と調整の上、決定
滞在制作	水天宮ピット（東京）	10月1日(金)～25日(月)：週5～6日、各日13:00～18:00
成果発表（一般公開）	東京芸術劇場アトリエイースト、アトリエウエスト	10月26日(火)～31日(日) ※上記期間内で、リハーサル、上演（3回以上）を実施

※ **新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって、実施内容に変更が生じる場合があります（例：東京での滞在制作を取り止め、オンラインでの実施に切り替える等）**。東京での滞在制作が不可となった場合でも、実施内容や方法を調整の上、本プログラムは実施します。その場合にも、原則として実施日程や謝金等、参加に際しての条件の変更はしない予定です。

※東京芸術祭ファームの他プログラム参加者との交流会等、上記以外で参加が可能必要なスケジュールについて、案内をお送りする場合があります。

※上記は2021年6月1日現在の情報です。内容は変更となる可能性があります。

■ 会場

クリエーション 期間：オンライン（使用ツール：Zoom）、水天宮ピット（東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」より徒歩2分）

成果発表 期間：東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト（「池袋駅」西口より徒歩2分）

■ 創作環境について

- 参加者同士のコミュニケーションは英語を使う場面が多くあります。主催者、スタッフは日本語でのコミュニケーションを必要とする者が多いため、稽古場、ミーティング等には原則として日英通訳が入ります。
※演出助手は、通訳が不在の場合にも、滞りなく業務を遂行することが求められます。
※Slack等でのメッセージのやり取りや、滞在制作中の稽古場以外での日常的なやり取り等、通訳が入らない場面も多くあります。
- 滞在制作は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して実施します。
- 下記のメンバーが、クリエーションやコミュニケーションのサポートを行います。
プロデューサー：多田淳之介（東京芸術祭ファームディレクター）
アドバイザー：松田正隆
コミュニケーションデザインチーム：Art Translators Collective
制作：APAF制作オフィス

東京芸術祭ファームは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファーム ガイドライン」（<https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>）に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

出演者募集に寄せたディレクションチームからのメッセージ

Ness Roque

世界を席卷するパンデミック禍の生活が二年目に突入する中で、アジアのアーティストとともに作品をつくる機会を共有できることを光栄に思います。パフォーマンス作家として、存在の新たな可能性を提案し、歴史上の「今このとき」を生きることの意味——新しい「生」の経験、新しい集まり方、国境を越えたコミュニティで交わされる連帯など——を理解することに積極的に取り組みたいと思います。異なる場所にいなながら、確かに同じ時間を生きている私たちが集まるのです。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

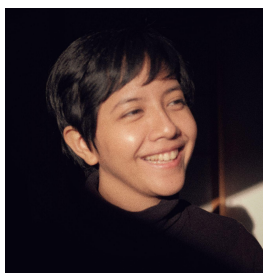


Photo: Ralph Lumbres

ネス・ロケ Ness Roque

フィリピン

1991年生まれ。フィリピン・エンゼルス市出身。舞台・映画俳優、ドラマトウルク、エドゥケーター。マニラを拠点とするコンテンポラリー・パフォーマンス・カンパニー Sipat Lawin Ensemble (2009-2018) の中心メンバー。フィリピンやアジア太平洋地域の様々なプロジェクトで参加型アートやリサーチの実践、コミュニティの運営、教育を統合するかたちで活動する複合領域的な集団 Prodix Artist Community の一員として活動。文部科学省の奨学金を受け、現在東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻に在籍。近年は音に基づくパフォーマティブなジェスチャーを都市空間におけるサイト・スペシフィックな介入として探究している。APAF2020 Labのメンバー。

www.nessroque.com

敷地理

いまアジア各国から集まったアーティストとパフォーマンスを国際共同制作するという事は、何を意味しどのような可能性を持つのでしょうか。国際共同制作とは、本来的に同じ言語を持たない人間が集まり何か一つのを形作ろうとすることです。その言わば沈黙せざるを得ない状況でこそ、私たち身体を手段として表現する人間の真価が問われるのではないのでしょうか。そしてそこで生まれる身振りこそが、指し示す明確な意味を失った伝達可能性それ自体を表すジェスチャーなのではないかと思います。いま世界各地で様々な思想が生まれ共存した対立する中、この共同制作の場をマクロな視点で捉え、そこで生まれる国籍の異なる人間が集団となった大きな身体による身振りのラリーの中に分からないものに対する交流可能性の一瞬が垣間見えるようなものとなれば嬉しいです。



敷地理 Osamu Shikichi

日本

1994年日本生まれ。振付家・ダンサー。武蔵野美術大学彫刻学科卒業、東京藝術大学大学院修士課程修了。身体をメディアとして、強い現実感を生むことを主題に作品制作を行う。YDC2020若手振付家のための在日フランス大使館賞受賞。主な作品に『ハッピーアイスクリーム』(YDC2020)、『振動する固まり、ゆるんだ境界』(TPAM2020 Fringe)、『blooming dots』(豊岡演劇祭2020フリンジ/CAF賞2020 / TPAM2021 Fringe)、『Juicy』(YDC2021) など。APAF2018 アートキャンプ参加者、APAF2019 Exhibition『ASIA/N/E/SS』美術として、過去2回APAFに参加。

mumumubrothers.wixsite.com/osamu-shikichi

募集概要

■ 募集内容

ネス・ロケと敷地理が共同演出を行う舞台芸術作品（創作トライアル）の演出助手

■ 応募資格

次の1～8すべてにあてはまる方

1. 演出助手としての業務（以下「主な業務内容」参照）を英語および日本語で遂行できる
2. 舞台芸術の演出助手、演出、振付、ドラマトウルク、演出部いずれかの経験がある
3. 東京都内での稽古に通える
4. 原則として35歳以下
5. 全ての実施日程（p.2参照）に参加可能
6. 東京芸術祭が行う、自身の参加プログラムの広報およびPRに協力することができる
7. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
 - Zoomのグループビデオ通話*、Slack、One Drive が利用できる端末（使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり）
*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
 - スマートフォンのみでの参加は非推奨
8. 以下の姿勢および関心を持っている
 - バックグラウンドや価値観が異なる相手との対話を通じて新たな発見を得たいというモチベーション
 - 国際協働におけるコミュニケーションについて考え、実践することへの関心
 - 今後も国際的な舞台芸術の分野で活動を続ける意思

■ 主な業務内容

以下の業務を英語と日本語を用いて実施していただきます。

- ・クリエーションスケジュールの調整、管理
- ・クリエーションに必要な資料の作成（進行表、香盤表等）
- ・クリエーションの補助
 - クリエーションに必要な情報や備品の把握、整理し、各所と連携して調達する
 - クリエーションに付随するミーティングの議事録を作成する
 - オンラインでのやり取りに必要なツールのセッティングを行う（Zoom等）
- ・テクニカルセクションとの各種調整
※テクニカルセクションとの調整や連携は日本語で行います
- ・稽古場日誌（日本語のみ）の作成、提出 など

■ 待遇 演出助手料：20万円（税込／交通費込）

■ 募集人数 1名

■ 選考スケジュール

ディレクションチーム ネス・ロケ、敷地理、プロデューサー 多田淳之介による選考を行います。

応募受付	応募締切：2021年6月20日（日） 23:59（日本標準時） ・オンラインのフォームにて受付
一次選考：書類審査	結果発表：2021年7月5日（月）までにメールにて合否を通知 ・応募時の内容をもとに選考を実施
二次選考：面接	選考実施日：2021年7月6日（火）～12日（月） ・上記期間、各日16:00～19:00（日本標準時）の中で面接実施日程を決定 ・オンラインにて実施（使用ツール：Zoomを予定）
採用者決定	結果発表：2021年7月16日（金）頃にメールにて採否を通知

※採否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。必ずメールでの連絡が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

■ 応募方法

以下、応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

| 応募フォーム <https://form.run/@farmlabexhibition2021>

〈必要事項〉

※英語または日本語で回答してください。

※「★」の項目については日本語と英語で回答してください（回答内容は可能な範囲で同一の情報を記入してください）。

1. 氏名もしくはアーティスト名
— 自分に対して使用してほしい代名詞（he, she, they 等 / 自由記述）
2. 国籍
3. 活動拠点（都市名 / 複数ある方は全て）
4. 生年月日
5. メールアドレス
6. 連絡先住所（日本語で記入）
7. 日中連絡のつく電話番号
8. 職業（所属 等）
9. プロフィール（日本語300字以内、英語120ワード以内） ★
10. ウェブサイト（あれば）
11. これまで舞台芸術作品の上演やクリエーションに携わった経歴
※作品名や自身の役割等、なるべく詳しくご記入ください。
※英語を使用した作品やクリエーションの場合はその旨も記入してください。
12. ポートフォリオ等、参考資料（あれば）
※資料のダウンロードが可能なリンクを添付してください。
13. 応募動機（日本語400字以内、英語150ワード以内） ★
14. 自身の英語でのコミュニケーション力（選択式）
 - a. 簡単な自己紹介や相手との会話ができる
 - b. ある程度準備しておけば、自分の活動の内容を説明することができる
 - c. 自身の専門分野において、抽象的な概念も用いながら考えや意見を述べることができる
 - d. cをもとに、議論を発展させていくことができる— 上記の回答に関する補足（自由記述 / あれば）
15. オンラインミーティング等に使用する機材（選択式）
※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」（p. 4）を確認してください。
16. 参加に際して使用するネットワーク環境
17. 二次選考期間 7月6日(火)～7月12日(月) 各日16:00～20:00（日本標準時）の内、審査に参加できない日時（あれば）
18. 他の東京芸術祭ファームのプログラムで応募を予定しているもの（選択式 / あれば）
※同時募集している他プログラムへの併願は可能です。
19. 「Young Farmers Forum」参加者募集への応募を希望するか（日本国内在住の29歳以下のみ対象）
※「希望する」と回答した場合は「Young Farmers Forum」参加者募集への応募手続きが不要となります（詳細：「Young Farmers Forum」募集要項 <https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>）。
20. 応募にあたっての連絡事項など（あれば）

■ 留意事項

お預かりした個人情報厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

【お問い合わせ】 APAF制作オフィス MAIL：apaf@tokyo-festival.jp TEL：03-4213-4293（平日10時～19時）

※記載の情報は2021(令和3)年6月1日現在のもので、内容等は変更になる場合がございます。

APAF から東京芸術祭ファームへ

このたび、東京芸術祭の人材育成プログラムとしてアジア次世代の作り手たちの協働と実験の場として人材や作品、国籍や文化を超えたネットワークを生み出してきた“APAF (Asian Performing Arts Farm)”は、これまで東京芸術祭及びフェスティバル/トーキョーが取り組んできた研究開発・教育普及プログラムを組み込んで、より裾野を広げ高みを目指す“東京芸術祭ファーム (Tokyo Festival Farm)”へとバージョンアップします。

ディレクター体制も APAF から引き続きディレクターとして多田淳之介、新たに共同ディレクターとして長島確を加えた2名体制へ、さらに APAF2020 から導入したコミュニケーションデザイン制度を基にガイドラインを策定し、異なる他者へのリスペクトを前提としたコミュニケーションの徹底、個々がクリエイティビティを発揮できる環境作りとハラスメント防止にも積極的に取り組んでまいります。

これまでも舞台芸術は異なる他者と協働し、様々なボーダーを超えてきました。グローバル化が進み、通信手段や移手段の発達によって異なる他者がより身近になった現在は、国籍や民族、言語などの枠組みが融解しはじめ多様な個がフィールドを行き交う“トランスカルチャー／トランスフィールド”環境が進んでいます。「国際的」という言葉の意味も「普段は混ざってない異文化が混ざること」「国外でも流通すること」から、「日常的に異なるものが混ざり合い複雑化したこの世界の価値観を提示すること」へと変わっていくでしょう。そして舞台芸術の役割もこの世界を映す鏡として変化していくのを感じています。

東京芸術祭ファームの「国際的」な次世代育成の場としてのミッションは、ボーダーの融解するトランスフィールド／トランスカルチャー環境を体感し、様々な価値観と出会いながらこの複雑化した世界を捉える力を育み、国や文化を超えて様々なフィールドをトランスし活躍する人材の輩出、そのための持続可能な環境作りです。

それが世界中で多様化と同時に生まれている「分断」に対抗していくものになると信じています。

2021年、未来に向けバージョンアップした舞台芸術のファームを、どうぞよろしく願いいたします。

東京芸術祭ファーム 2021 テーマ「都市の価値／Why Cities?」

昨年の APAF2020 は“Anti-body Experiment”というテーマのもと、オンラインの可能性とリアルな身体を捉え直し「集まらないこと」への抗体を作る実験でした。今年の東京芸術祭ファーム 2021 では COVID-19 の感染（拡大／収束）状況の違いが残る世界を背景に“都市の価値／Why Cities?”というテーマを掲げます。これは国や地域ごとに固有のキャラクターを持ちながらも、経済や効率、消費と生産、そして感染症拡大リスクという共通の 이슈を持つ「都市」をめぐる、これからの生き方についての問いかけです。何が変わって、何が変わらないのか。私にとって。私たちにとって。あなたにとって。あなたたちにとって。様々なサイズや距離によっても揺らいでいく「価値」は誰のものなのか。プログラム参加者も観客も、ファームを訪れる異なる者たちで共に考えるためのトリガーです。

2021年6月

東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、舞台芸術の祭典・東京芸術祭の人材育成機能を集約した新しい枠組みです。アジアでの若いアーティストの交流と成長のプラットフォームである Asian Performing Arts Farm (APAF: エーパフ) にフェスティバル/トーキョー (F/T) の研究開発・教育普及プログラムが加わって誕生しました。出会いと学びの場「スクール」、現場研修の機会「インターンシップ」、研究開発に挑む「ラボ」の3つのカテゴリーがあります。参加者公募を中心とする多様なプログラムのなかで、他者と協働しながら地域や分野を超えた“トランスフィールド”を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。

ラインアップ詳細はこちら <https://tokyo-festival.jp/2020/program/farm2021/>